



自転車社会の環境改善を目指して No.26

## 茅ヶ崎と自転車についての一考察



文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会会員  
茅ヶ崎市商店連合会サイクルライフ研究委員会委員

原 俊一

事務局：〒 141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階  
TEL 080-3918-2932  
URL <http://www.cyclists.jp/>

### 茅ヶ崎と自転車

自転車のまちと呼ばれる茅ヶ崎と自転車との出会いはいつ頃からなのか調べてみた。明治時代の茅ヶ崎の巡査石上憲定の日記「自渉録」の明治29年(1896)12月26日に「前十時国府津発自転車競争アルニ付、東海道取締ノ為九時発シ中島ニ至リ」と出ているのが茅ヶ崎での自転車の初出であろう。

2011年9月23日から10月2日までの期間、貞奴とその時代の自転車展が小津安二郎の定宿であった茅ヶ崎館で開かれ、貞奴が自転車を練習している様子が紹介されていた。茅ヶ崎の自邸「萬松園」に転居したのが明治35年(1902)であるから、貞奴が茅ヶ崎で自転車に乗ったのはそのころであろうか。たぶん茅ヶ崎で自転車に乗った最初の女性であろう。

それでは地元の人では誰であろうか。『明朗の茅ヶ崎』昭和13年10月15日号に連載されていた重田岱仙洞氏の茅ヶ崎の變遷史(四)茅ヶ崎驛開設前後という記事に「明治三十二年十月小学校(茅ヶ崎小学校)が十間坂より今の所に移轉した、(中略)この當時小学校前で今の岡崎郵便局長が自転車を借りて乗ることを練習したものだ 一時間十銭、當時人夫一日

が三十銭だから相当高價であつた、借りて乗ることを習ふ迄の必要に迫つてゐない自分もこの練習振りをよく見てゐた」とある。貞奴に遡ること3年前である。この岡崎郵便局長もその1人に数えられるであろう。

### 大正初期に自転車屋が登場

明治32年に茅ヶ崎には自転車があつたのだろうか。神奈川県統計書によれば高座郡(現在の茅ヶ崎市・藤沢市・座間市・相模原市・大和市・綾瀬市・海老名市・寒川町などが含まれる)では明治35年まで自家用自転車の台数が記載されていない。明治36年に37台の記載があり、当時の高座郡の戸数は14,743戸、人口98,910人であった。明治33年までは自転車税は国税、明治34年から昭和14年までが県税、昭和15年から市町村税となり、昭和33年に廃止に

なつた。神奈川県統計書を見る限り、自家用以外の自転車は明治44年にその他として2台、明治45年に営業用として87台が記載されている。“自転車を借りて”とあるが、茅ヶ崎で自転車屋が現れたのは大正の初期で大正9年に出版された『全国輪業社便覧 第4輯』(大阪輪友雑誌社・大阪自転車商組合月報共編)で茅ヶ崎町竹内作次郎(竹ノ内自転車)、加藤自転車店、卸商前島泰助(前島自転車)、菱沼大田長吉、小和田水島寅吉、熊切泉太朗と6店あつたことがわかる。なお大正3年の『全国自転車商名鑑』にはいずれも記載されていない。従つて茅ヶ崎に自転車屋というお店ができたのは大正3年から大正9年の間であり、おおざっぱに大正初期といつて間違いはなからう。とすれば、明治32年の貸し自転車は隣の平塚からのものであろうか。

『としよりの話 2号』に「自転車は学校下がんと(出ると)すぐ乗った。茶屋(茶屋町)に前島と竹ノ内と2軒自転車屋があつて、1時間10銭で借りて、そこから鶴嶺の学校まで引きずつて持つて行つて運動場で練習したわけ、乗れねいうちは、あっちこっちぶつけまつて持つていくのに骨折つちまつたね。」という話が載っている。この話に出てくる前島と竹



得意先回りの番頭(田村屋の名前がある)が自転車に乗っている



ノ内という自転車店はどちらも創業が大正初期と言われる。従ってこの話は、大正初期のころと推定できる。既に大正の初めには学校を出てお金を払って練習するという人が出てきていた。更に昭和50年11月発行の『としよりの話』で三木兼太郎さんは「大正末だったかね、はじめ2、3人持っていて、えらいいいもんが出来たから皆乗んべえて習ったもんだ。あの頃は今の自動車買うよりもっと高かった。」と語っている。明治32年の郵便局長の話から10年以上経って、自転車が普及し始めたのがわかる。

## 自転車事故の記録

大正から昭和にかけて活躍された衆議院議員の山宮藤吉の日記には自転車事故や損害賠償、そして盗難のことなどが記されている。自転車事故としては「報徳学講習会伊勢原小学校にて開始、量平行余ハ中途自転車馬力と乗合馬車とに衝突、自転車破壊に付帰る。(大正6年8月1日)」、そして茅ヶ崎での自転車事故と損害賠償の相談「加藤豊太郎来訪俸市太郎今宿にて自転車衝突被殴打に付損害要償の件相談(大正10年9月30日)」、茅ヶ崎での自転車事故と損害賠償について記録に出てくる初めてのものである。

興味深いのは昭和4年の自転車盗難事件である。以下抜粋。「昭和4年4月17日江陽銀行茅ヶ崎支店訪問大岡通帳再交付 富士富士号自転車右の場所(江陽銀行茅ヶ崎支店)にて紛失、5月11日高橋鯛五郎来訪紛失自転車魚藤裏物置に在りとの通

知、5月13日茅ヶ崎警部補派出所より紛失自転車下附、5月15日高橋鯛五郎訪問自転車発見に付金拾円謝礼」。盗難の自転車の発見者に謝礼で10円を支払っている。当時の物価はどうであったか、東京—大阪間の国鉄運賃は6円4銭、航空運賃30円(以上『物価の文化史事典』より)、新聞購読料(朝日)月決め購読料90銭(昭和5年)『値段の風俗史』より。また茅ヶ崎の新町地区自治会発行の『しんまちを語る』(昭和58年11月1日発行)の座談会“昔の偲ぶ”の中で中川(フサ)氏は(昭和8年頃)大工の手間が1円、平塚までの往復の汽車賃が40銭と語っている。いずれにしても大層な謝礼であった。

茅ヶ崎町の自転車台数は昭和2年に1,067台であり、大正元年では僅か114台である(『生活の凝視と学校経営』茅ヶ崎尋常高等小学校)。明治42年には自転車税として787円が計上されている(『茅ヶ崎町報創刊号』より)。昭和2年の自転車店は10軒であった(『茅ヶ崎町鶴嶺郷土史』より)。

## 自転車ハイキングの開催

戦前、茅ヶ崎にも地元の新聞があった。昭和13年8月10日創刊、4年後の17年には休刊となる『明朗の茅ヶ崎』である。

昭和14年5月に自転車ハイキングと銘打った箱根までのサイクリングが行われた。これを含め自転車ハイ



巖島神社前 第1回自転車ハイキング集合写真

キングとして2度、明治神宮まで自転車で行く初詣を2度行っている。

地元新聞社主催で始まったこの催しの最後の主催は茅ヶ崎サイクル・クラブで終わっている。短い期間に同好サークルが誕生し、重田岱仙洞氏が指摘したように自転車ブームが訪れたことを伝えている。

茅ヶ崎で切っても切れない縁のある人物は日米富士自転車の岡崎久次郎氏である。茅ヶ崎に2万余坪ほどの別邸を設け、代議士としても活躍されている。その日米商会在茅ヶ崎に自転車グラウンドを設けるという記事が明治44年4月21日号の『横浜貿易新報』に掲載されている。その後のことはわからないが、周囲が一哩(3.9km)もあり、自転車の周回コースとしてはぴったりである。

かように考えると、ミヤタが進出する前でも茅ヶ崎は自転車との関わりが強かったことが窺える。平坦地で道の狭い茅ヶ崎は自転車が普及する要素に満ちていたと言える。

今でも茅ヶ崎は自転車に乗れなければ大人も子供も付き合いがしがたいまちである。 PP

### 「自転車検定」を始めました



インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ〈<http://www.cyclists.jp/>〉からどうぞ。